

投資の基礎講座 「家計の資産構成日米比較」

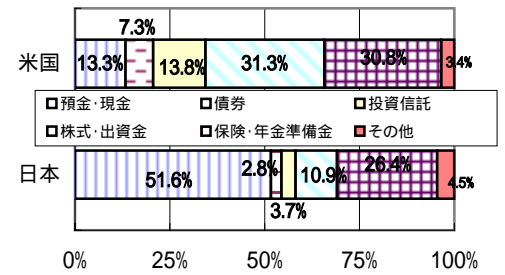
CFP®認定者
日本FP協会群馬支部副支部長

日本の個人金融資産は1,499兆円、米国は39.8兆ドル(約4,696兆円)でその資産構成は右のようになっています。(2006年6月末現在。出所:日本銀行)

預貯金が日本は51.6%と半分超であるのに対し、米国では13.3%、一方、有価証券(債券、株式・出資金、投資信託)はそれぞれ、52.4%と17.4%でほぼ日米の比率が逆転しています。これは、「日本人がリスクが嫌いで貯蓄好きなのに対し、アメリカ人がリスクをとることが好きで貯蓄が嫌いなのだ」と言われることがあります。しかし、アメリカ人もかつては大半の金融資産を預貯金で持っていました。ブラックマンデーや様々な危機を乗り越え、401Kなどの年金制度が広がる中で徐々にリスク商品が拡大していき現在のよう構成割合になってきました。

日本も団塊の世代の大量退職や超高齢社会を迎え、金融資産に対する考え方が変化してきており、リスク商品の構成割合が拡大しつつあります。リスク商品と付き合うにはそれなりの準備が必要です。個々人がFP(ファイナンシャル・プランニング)の知識を身につけなければなりません。

家計の資産構成日米比較(2006年6月)



先週の金融市場データ

週間高低表(終値ベース)	週初	高値	安値	週末終値
日経平均株価	16,254.29円	16,449.33円	16,082.55円	16,436.06円
TOPIX	1,625.12	1,634.21	1,601.99	1,634.21
東証1部単純平均	461.95円	461.95円	452.82円	456.50円
東証1部売買高	1,606,400千株	1,906,008千株	1,498,985千株	1,544,897千株
ニューヨークダウ平均	11,670.35ドル	11,866.69ドル	11,670.35ドル	11,850.21ドル
NASDAQ	2,237.60	2,306.34	2,237.60	2,299.99
10年国債利回り	1.725%	1.730%	1.695%	1.705%
債券先物中心限月	134.22円	134.66円	134.22円	134.66円
無担保コールO/N	0.266%	0.266%	0.239%	0.239%
円TIBOR 1ヶ月	0.36545%	0.36545%	0.36364%	0.36364%
円TIBOR 3ヶ月	0.44182%	0.44182%	0.44182%	0.44182%
ドル/円相場	118.28円	118.79円	117.47円	117.99円
ユーロ/円相場	149.83円	150.05円	149.57円	149.66円
1ユーロ=ドル	1.2667ドル	1.2745ドル	1.2667ドル	1.2684ドル
米国FFレート	5.3750%	5.3750%	5.2500%	5.2500%
米国10年国債利回り	4.60%	4.69%	4.56%	4.69%

スーパー定期(ニュー定期)金利表

平成18年10月10日現在

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	2年
群馬銀行	0.15%	0.15%	0.17%	0.25%	0.30%
東和銀行	0.15%	0.15%	0.17%	0.25%	0.30%
高崎信用金庫	0.15%	0.15%	0.17%	0.25%	0.35%
郵便局	0.15%	0.15%	0.17%	0.25%	0.30%

いざなぎ景気

2002年2月に始まった現在の景気拡大期間が10月で「いざなぎ景気」に並び、11月には戦後最長の拡大となるのが確実といわれています。

いざなぎ景気とは、1965年11月から70年7月までの57カ月続いた戦後最長の景気拡大期で、この時代、高度成長による所得の拡大を背景に、自動車、クーラー、カラーテレビのいわゆる3Cが急速に普及しました。これに先立つ神武景気(1954年11月~57年6月まで31ヶ月間続いた第一次高度経済成長期の中の爆発的な好景気)や岩戸景気(1958年6月~61年12月まで42ヶ月間続いた高度成長時代の好景気)を上回る長期間の好況であったため、岩戸神話をさらにさかのぼる国造り神話から名づけられました。いざなぎ景気に次ぐのがバブル景気で、86年12月から91年2月までの51カ月続きました。

今週の株式相場見通し

先週の株式市場は、日銀短観が事前の予想を上回ったこと、NYダウが連日で最高値を更新するなど好材料が相次いだことから、上値を抑えられながらも堅調な展開となりました。

今週の株式相場は、北朝鮮が地下核実験を行ったことを受け軟調なスタートとなりそうです。緊張の高まりでリスク回避の動きから外国人投資家が日本株の比重を下げる動きをとるものと思います。急ピッチな上昇に対する警戒感から利益確定の売りが出やすい状況だったことが下げを加速しそうです。

しかし、好調な経済指標や中間決算に対する期待感も根強く、絶好の押し目買いとして下値には買いが入るものと思います。

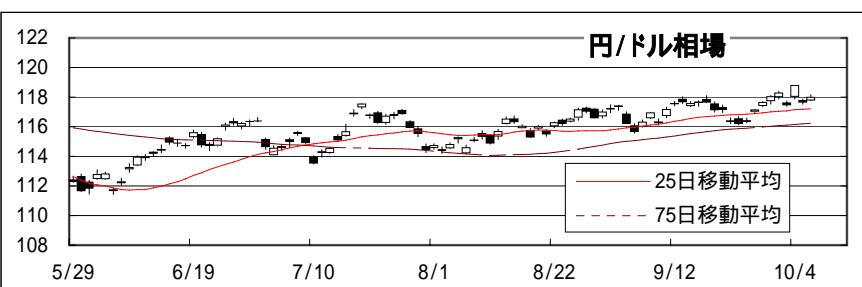
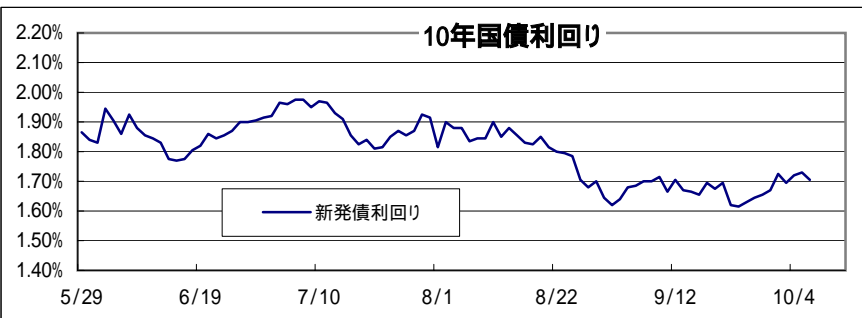
今週の債券・為替相場見通し

先週の債券相場は、日銀短観で現状は好調なもの先行きがやや弱含みだったことから利上げは遠のいたとの見方と株高との間で方向感の定まらない動きとなりました。

今週の債券相場は、北朝鮮の核実験を受け質への逃避から債券買いが強まり堅調な値動きとなりそうです。特に中短期債に買いが集まるものと思います。10年国債利回りは1.6%割れもありそうです。

先週の為替相場は、米国株高や外債投資の動きから一時1ドル=118円台後半まで円安・ドル高が進みました。

今週の為替相場は、アジアの地政学的リスクの高まりや国内金利の引き上げが当面行われないとの見方から、円は売られやすい状況が続くものと思います。1ドル=119円台半ば程度まで円安・ドル高が進む場面もありそうです。



本資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。ここに記載されているデータ、は信頼できる各種情報源から入手したもので、その正確性や完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された見解や予測等は資料作成時点における個人的意見であり、ライフプラン21が保証するものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。

CFP®, CERTIFIED FINANCIAL PLANNER®およびサーティファイドファイナンシャルプランナー®は、米国外においてはFinancial Planning Standards Board Ltd. (FPSB)の登録商標で、FPSBとのライセンス契約の下に、日本国内においてはNPO法人日本FP協会が商標の使用を認めています。